

# 私の役目は2人が存分に力を発揮できるようサポートすること

佐々木副町長にお尋ねします。三人の中で唯一の大槌出身者ですが、震災当時はどちらにいましたか？

佐々木副町長（以下S） 町の中にいました。地震を感じてすぐに、自宅へ戻りました。幸い家も無事で、震災から1ヶ月ほどは、大槌高校の避難所へ行って手伝いをしていました。

町の職員としてつとめた経験がありますが、この震災以前で印象に残る災害はありますか？

S 総務課長時代に、大きな山火事がありました。あの時も自衛隊がたくさん来てヘリによる消火活動を行いました。大変だったのを覚えています。

まさに防災担当として災害を経験されたのですね。今回また副町長をつとめるにあたっての思いをお聞かせ下さい。

S 千年に一度と言われるこの震災から復興するため、町長は専門の業務を行う三人の副町長を置きまし

た。中でも私の務めは、復興、産業振興担当の副町長が存分に力を発揮できるようサポートすること、そのための環境を整えることだと思っています。

就任以後、町の人々を見て感じることはありますか？

S まだあまり直接接する機会が少ないですが、高校の生徒たちの意見を聞く機会があり、その中で地元への強い思い入れを感じました。このようなことがありましたが、若い人たちが地元を再確認し、大槌を愛しているのが伝わってきてうれしく思いました。町の人という意味では、職員のことにも気がかかります。自らも被災者でありながら、大変な業務を行っている職員の健康面を心配しています。

最後に、佐々木副町長は一言で言うとうどんな方でしょうか？

S 自分では割と大雑把な人間だと思っています。なぜかまわりはそう思っていないようですが（笑）。



さ さ き あきら  
佐々木 彰（調整担当副町長）

# 復興計画に、5年後、10年後を見据えた産業振興の方針を



たか はし こうしん  
高橋 浩進（産業振興担当副町長）

高橋副町長にお尋ねします。これまでの大槌との関わりは？

高橋副町長（以下T） 十数年前、県庁で科学技術を担当していた時、東大海洋研によくおじゃましていました。昨年沿岸広域振興局に来てからは、濃密なお付き合い（笑）をさせていただいておりました。

県庁では他にどのような仕事を担当していたのですか？

T いろいろやってきたので話すと長くなりますが（笑）。直前には海洋政策と食産業振興に携わっていました。それ以前は、農林水産業や商工業の振興に関する仕事が多かったですね。

大槌町の産業振興課の分野はほぼ全てありますね。

T そうですね。そういった意味では、これまでの経験を大槌の復興に生かすことが出来ればと思っています。震災当初から見てきて大槌町の印象は？

T 町が壊滅的な状況の中、がんばってきた人をたくさん目にし、本当に感銘を受けました。大槌の人は、ねばり強く着実にやるといった人が多いように思います。

産業振興担当として、これからすべきことをどう考えますか？

T まずは、被災した事業者の皆さんの一日も早い事業再開の支援が急がれます。何よりも地域の経済をグルグル回していかなければいけません。中長期的な面からは、現在検討している復興計画に、5年後、10年後を見据えた産業振興の方針を盛り込むこと。人口流出対策については雇用の確保はもちろんのこと、町への誇り、人となりのつながり、暮らしやすさなどが大事で、これらを町民の皆さんにお示しすることが必要であると考えています。

最後に、高橋副町長を一言で言い表すとどんな方でしょうか？

T だいぶ前の話になるんですが、大学の後輩たちが私の登場する際のBGMに「南部牛追い唄」をかけたんですね。これには、私自身、意外だったんですが、彼らに言わせると、私という人間は、これっと思ったら、ずんずん前に進んじゃうんで、「牛」だということになったようなんです（笑）。

# 一刻も早く復興計画を策定し、進めていくことが私の使命

石津副町長にお尋ねします。大槌町に来たことは？

石津副町長（以下I） 町へは初めてです。仙人峠道路ができるころ、現地を見に来ていたので、国道沿いを1回は通っていると思いますが…。

以前の職場では、どのような仕事をしていたのですか？

I 福島県で、国道を維持管理する出張所の所長をしていました。国道13号、栗子道路という幹線道路ですが、そこを24時間体制で維持管理していました。

震災の時は何を？

I 移動中の車の中で揺れを感じました。道路がひび割れたり、崩れたりして、かなり大規模な災害になると思いました。

福島でも災害対応で苦労されたと思いますが、大槌に来て、町の印象は？

I 報道などで壊滅的な被災の状況を見聞きしていたので、町の人々は元気を失っているのかなと思っています。

したが、みなさんそうではありませんでした。先日、仮設団地の遊具を子どもたちに考えてもらうイベントに参加させて頂きましたが、子どもたちはみんなとても元気で。そういう姿を見るとほっとしますね。

町民も復興に向けて動き出しています。復興担当副町長としての、意気込みをお聞かせください。

I 震災で亡くなられた方々は、本当に無念だったと思います。残った人たちで、これからこの町を再び興していかなければいけない。そのために何をすべきか、一刻も早く復興計画を策定し、進めていくことが、私の使命であると重く受け止めています。

最後に、石津副町長を一言で言い表すとどんな方でしょうか？

I ーそうですね。普段は物静かですが、やる時はやります！ですかね。



いし っ けん じ  
石津 健二（復興担当副町長）

# 復興への新布陣

10月、大槌町では3人の副町長が就任した。11月からは部局制となり、復興に向け再スタートしている。新たな布陣のキーとなり、町長を支える3人の副町長に、復興への思いを聞いた。



Akira Sasaki



Koshin Takahashi



Kenji Ishitsu

